

新村氏

- 洪水HMの実態調査
 - 全国の2割ほどが作成, 東北は先進地だが最近足踏み
- HMの名称・避難地図?, ハザードマップ?
- サイズの問題, 冊子型, 切取線
- 認知率の低さ, 認知していても自分の町で作られていることを知らない
- 全戸配布が基本だがフォローアップ無し

佐藤氏

- 抵抗力の高度化が要求される地域のHMに「対応力情報」ばかり掲載されても…
 - HMの実態はどうだろう?
- リスクとハザードの関係は, 災害類型によって異なる. 地震は同じ領域内でも脆弱性の分散が大きい. 洪水は小さい.
 - もう少し補足説明
- リスクの高精度化, ハザードの高精度化. 精度はそこそこでよい? 使い方?
- 一律の耐震対策ではなく, 脆弱性の高い地域に重点化することが必要? リスクマップ.
- リスクマップになってない. 対応型, 対策型情報
- 地震は予防が重要

増田氏

- HMの機能
 - 災害時行動M, 情報提供, 地域の対策誘導. リスクコミュニケーション媒体として
- 地域型HM作成の主体は? 消防系, 河川系, 砂防系… リンクは困難
- 地域防災計画改定
 - 昨年の地震がきっかけ? 伝播性は?
- 顧みられない防災カルテ
- WebGISによるHM. リスク情報を載せられる可能性もあるが.
 - もっとも欠けていて, 掲載可能なリスク情報は?

村山氏

- HM, ハザード情報を地域と共有. HMを避難+まちづくりに生かす
- 「HMの最先端」とは, HMを住民が使う仕組み作りだ, というのが公開講座時の結論
- 地形情報がリスク情報として使える可能性
 - 昨年地震:被害程度, 建築年代, 地形変化が関係
 - 河南町北村緑ヶ丘:地形図で読める盛り土境界付近に被害の集中. 地形と被害の対応が明瞭
 - 既存HMでは地形情報は?
- 土地条件を含むハザード情報を活用すべき. 地理学の蓄積を…